

## 第 74 回 全連小島根大会報告 森田 智也 事務局長

この大会は島根と東京の 2 地区を結んで行うという試みであるが、これこそが全連小の心を表しているのだと感じた。人が集って語り合うことへの価値を共有したいということではないだろうか。私も、数年ぶりに、分科会に参加した。久々のライブ感であった。Zoom でも意見交流はできるが、今回は会同だったので、交流タイム以外にも貴重な意見交流を行うことができた。

それでは北海道からの発表についてお伝えする。

第 6 分科会では、小樽市立山の手小学校、日下部校長先生が、「健やかな体を育むカリキュラムマネジメントの推進における校長の役割と指導性」について発表してくださった。小樽市の子どもの体、体力について肥満傾向にあること、体力低下が著しいこと、運動量そのものが不足している状況から、資料にあるような三つの取組が紹介された。この取組は学校だけにとどまらず、地域の特色を出しながら実践が行なわれているので、今後の取組もとても楽しみな内容であった。

第 9 分科会は「経験を繋ぎ実践力を高める防災教育・安全教育の推進と校長の在り方」について、江差町立江差北小学校、関田校長先生が発表してくださった。私はこの分科会に参加したのだが、非常に納得がいく、共感を呼ぶ発表であった。

訓練の充実へ目が行きがちだが、実は、靴をそろえて入れる、持ち物を整理することが、命を守る行動として、日常で大切にされていることに、簡単だけど大切だと思ったなどの感想が寄せられていた。

交流では、東京都荒川区の校長先生からの情報で、荒川区は木造建築家屋密集地域で、レッドゾーンというお話から、2011 年の震災のあと、各中学校の部活動に防災部と呼ばれるものができたという話があった。「日中、この地域にいる若者は誰？」「中学生がいる。」ということから始まった話だそう。